

## 岡本委員からの質問

和木町の子ども・子育て支援事業は、とても素晴らしい内容だと思います。こども園が新しくなり周辺地域から注目を集めています。

1号認定者が減少傾向にあり、2号認定者がクラス定員に余裕があることを知り、少し驚きました。全体の数としてはどうなのでしょう。こども園に通う子供の人数が増えると町の活性化につながるのではないかと思います、質問しました。

**Q:和木こども園に通う子どものこどもの人数はどうでしょうか。推移を教えてください。**

A:令和元年度に新設された和木こども園に通う子どもの2年度分の利用人数を比較すると利用者数は減少しています(資料1)。3歳未満の利用者数は、年度内には定員数(66名)に達するものの、3歳以上子どもの数については減少しています。

また、昨年策定しましたこども子育て・支援事業計画上の児童人口数の推計値もゆるやかに減少に向かうとしており、資料2による人口の実績値においても、減少していることから、園全体の利用者数も今後ゆるやかに減少していくと考えられます。

### ■和木こども園における利用者数(資料1)

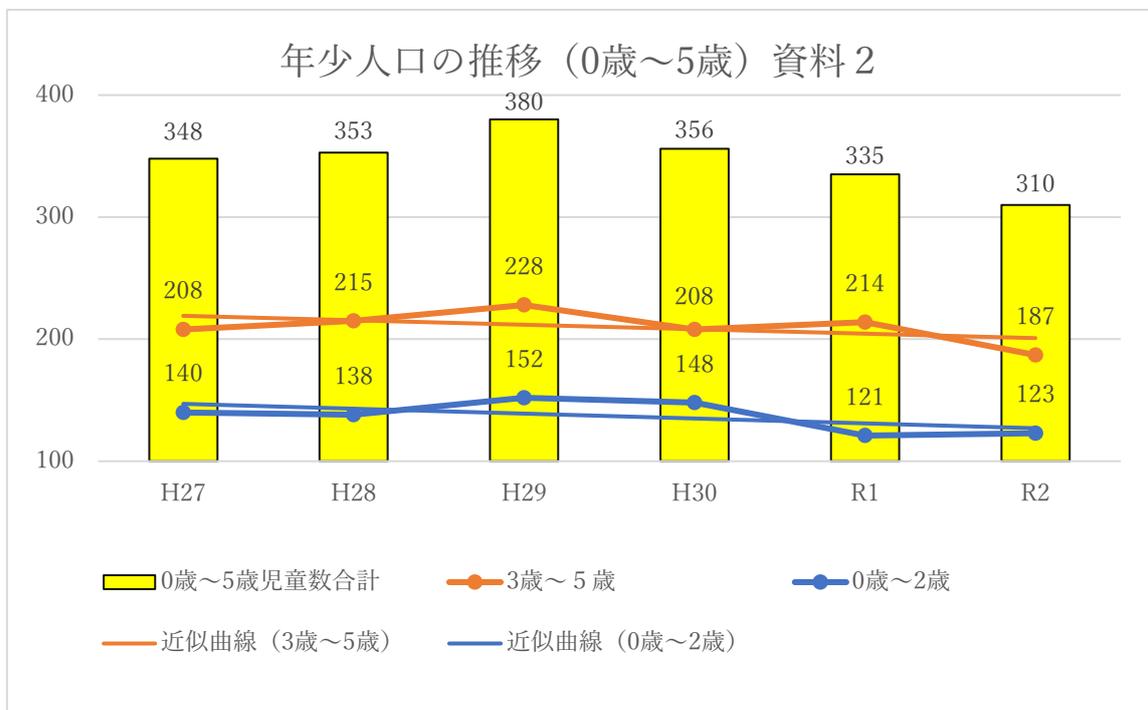
区 分	令和元年度	令和2年度
3歳未満	59人	53人
3歳以上子ども	195人	186人
利用者数合計	254人	239人

資料：学校基本調査(各年5月1日)

## ■年少人口の推移（0歳～5歳）（資料2）

区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
0歳～2歳	140	138	152	148	121	123
3歳～5歳	208	215	228	208	214	187
合計	348	353	380	356	335	310

資料：住民基本台帳（各年4月1日）



各年度の人口比較では、平成29年度が最も児童人口が多いのが分かります。その後減少を続け、近似曲線（※）の傾きは小さいながらも、右下がりの直線であるため、緩やかな現象傾向が続くと考えられます。

※近似曲線：数値の推移の平均的な場所を結ぶ曲線であり、傾向を把握するのに用いる曲線

崎本委員からの質問

**Q1：病児病後児保育事業**

実績値は、37人とありましたが、利用を希望した方全員が利用を受けられたのでしょうか。

**A1：**広域の病児病後児保育の利用に関しては、直接施設に申込みを行うため、申込みから利用までのプロセスの把握はできない仕組みになっております。実績値から見ましても、全員ではないかも知れませんが、概ね受け入れてもらえているのではないかと推測されます。

**Q2：ファミリーサポートセンター事業**

こども宅食便（山口フードバンク事業）調査の際、ひとり親家庭の保護者から町内のファミリーサポートの有無について質問を受けました。他にも援助を受けたいと考えられる家庭は存在すると思います。

**A2：**町ではファミリーサポートセンター事業を行っておりません。利用ニーズは把握しているものの、援助会員の確保や会員の一定数確保等が課題であり、事業化ができていない状況です。また、賛助会員を行うためには、研修が必要で他市町でも苦慮していると聞いております。今後、必要性について検討を行っていきたいと考えております。